

地域学校協働活動の取組事例（地域学校協働本部）

学校に笑顔を！家庭に安心を！地域に活力を！三者をつなぐ「豆ボラ神守」

（愛知県津島市神守中学校地域学校協働本部）

取組の目的・経緯

- ・学校を地域に開き、保護者以外の地域住民の協力を得るため、平成22年10月に学校支援地域本部（豆ボラ神守）として発足。
- ・平成28年7月から「学校支援地域本部」を「**地域学校協働本部**」とし、学校・家庭・地域が一体となって、地域ぐるみで子供を育てる体制を目指している。



学習支援「ドテラ」

取組の概要・工夫

- ・寺子屋（月テラ・ドテラ）：月曜の放課後、土曜の午前実施する学習支援（学校側のニーズにより、希望する生徒を中心に、年間各15～20回ほど実施）
- ・生活安全支援：津島少年補導委員と連携し、校内巡回活動を実施。
→ 校内で補導委員と生徒が顔見知りになり、校外でもコミュニケーションが取れることから、非行の防止になっている。
- ・豆ボラ神守実行委員会：本部長やコーディネーターを中心に学校側のニーズの確認、情報の共有、運営上・生徒指導上の課題の話し合いの場として、隔月で実施。



津島少年補導委員
と校内で談笑する
中学生

取組の成果

- ・生徒の自己有用感が高まると同時に、地域からは元気もらったとの喜びの声が届いている。
- ・支援を受けたり、地域へボランティアに出かけたりした中学生が大学生になり、学生ボランティアとして中学生を支援するなど、地域と学校をつなぐ活動をさらに広げている。
- ・教育課題である「不登校生徒の増加」を食い止めることにつながった。
- ・教職員の多忙化解消の一助となり、職員からも精力的な授業改善や子供と関わる時間が増加したなどの好評価を得ている。
- ・学習ボランティアに参加する大学生のほとんどが教員志望であり、退職教員とともに学校での学習支援を行うことで、教育実習的な役割も果たしている。